

1. 魚介類調査結果の概要

1. 魚介類調査結果の概要

(1) 確認種数 (資料II.1.1、II.1.2)

今回とりまとめを行った49河川で確認された魚類は20目72科277種、エビ・カニ・貝類は13目51科140種です。また、魚類の確認種数が多かった河川は、関東地方利根川の81種、近畿地方揖保川の76種などでした。

(2) 特定種の確認種数 (資料II.1.3、II.1.4)

今回とりまとめを行った49河川で確認された特定種は、魚類ではレッドリスト絶滅危惧ⅠA類のリウキュウアユ、ⅠB類のイチモンジタナゴなどの38種、エビ・カニ・貝類では、レッドデータブック希少種のハクセンシオマネキなどの3種でした。また、特定種(魚類)の確認種数が多かった河川は、近畿地方揖保川、関東地方利根川の9種などでした。

(注) 特定種の定義

本資料においては、次のものを特定種としています。

- ・「文化財保護法」の特別天然記念物および天然記念物
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種及び緊急指定種
- ・環境庁編(1997-1999)「レッドリスト」掲載種
- ・環境庁編(1991)「日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—」掲載種
- ・環境庁編(1976)「緑の国勢調査(第1回自然環境保全調査)」における「すぐれた自然の調査」対象種
- ・環境庁編(1982)「緑の国勢調査(第2回自然環境保全基礎調査)」における「日本の重要な淡水魚類」対象種(ただし、環境庁指定の種のみを対象)

(3) 外来種の確認種数と割合 (資料II.1.5、II.1.6)

今回とりまとめを行った49河川で確認された外来種は、魚類ではブラックバス、ブルーギルなどの17種、エビ・カニ・貝類ではスクミリングガイ、サカマキガイなど9種です。また、現地確認種数に占める外来種(魚類)の割合が高かった河川は、沖縄地方の国場川の約23%、関東地方の中川・綾瀬川の約21%などでした。

(注) 外来種の選定基準について

本資料における外来種は、おおよそ明治以降に侵入したと考えられる国外由来の動植物を扱い、侵入後に日本で定着した帰化種であるか否かは、判断が困難な種があるため考慮していません。また、外来種の選定は、巻末に添付した文献および学識経験者の意見により行っています。

(4) ブラックバス(オオクチバス)・ブルーギル、カダヤシの確認状況 (資料II.1.7)

確認状況の概要は、6～7ページに示すとおりです。

(5) メダカの確認状況 (資料II.1.7)

確認状況の概要は、11ページに示すとおりです。

(6) 魚類の捕獲個体数から見た河川の特徴 (資料Ⅱ.1.8)

魚類の捕獲個体数から見た河川の特徴については、16ページに示すとおりです。